

不凍水抜栓

MT-II・MT・TKシリーズ
MV/BH-10/ST-II

工事店様用

施工説明書

公益社団法人日本水道協会品質認証センター認証登録品

■この度は、不凍水抜栓をお求めいただき、まことにありがとうございます。この施工説明書をよくお読みいただき正しく施工して下さい。

■本製品は、水抜きハンドルを操作することにより、配管内の水を抜き、凍結を防止する器具です。

■取扱説明書に貴店名を明記の上、お客様にお渡し下さい。



施工説明書の記載内容および製品の仕様は、品質改良のため予告なしに変更する場合があります。

安全上のご注意




ここに示した警告および注意は、状況によって重大な結果に結びつく可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、内容をよく理解して正しく施工して下さい。

■安全表示について

危害、損害の程度を警告・注意に分けて表示しています。

 警告	人が死亡する、または重傷を負う恐れがあることを示します。
 注意	火傷やけがを負う恐れや物的損害が発生する恐れがあることを示します。

図記号の種類と意味

 ○	してはいけないこと。(行為の禁止)
 △	注意すること。(注意の喚起)
 ●	必ず行うこと。(行為の強制・指示)

△ 注意

- 器具を分解しないで下さい。作動不良や漏水の原因になります。
- 落下等による衝撃を与えないで下さい。作動不良や漏水の原因になります。
- 火気や熱源を近づけないで下さい。部品の劣化や変形により、作動不良の原因になります。
- 保護キャップは配管直前まで必ずさないで下さい。異物が混入し、作動不良の原因になります。
- 勾配不足や鳥居・U字配管は、避けて下さい。このような配管によって水が抜けにくく凍結破損し、漏水の恐れがあります。
- 寒冷地仕様以外の水栓は使用しないで下さい。寒冷地仕様以外の水栓は、開栓しても配管内に空気が入らず水が抜けないため、凍結破損し、漏水の恐れがあります。
- MT-IIシリーズ・MVの内筒管一式交換の際は、強く締め付けすぎないで下さい。締め付けが強すぎると、メンテナンスが困難になります。
- ベンジン・シンナー・トルエン等の有機溶剤入りの洗剤は使用しないで下さい。塗装が剥がれたり、印刷が消えたり、部品が溶ける恐れがあります。

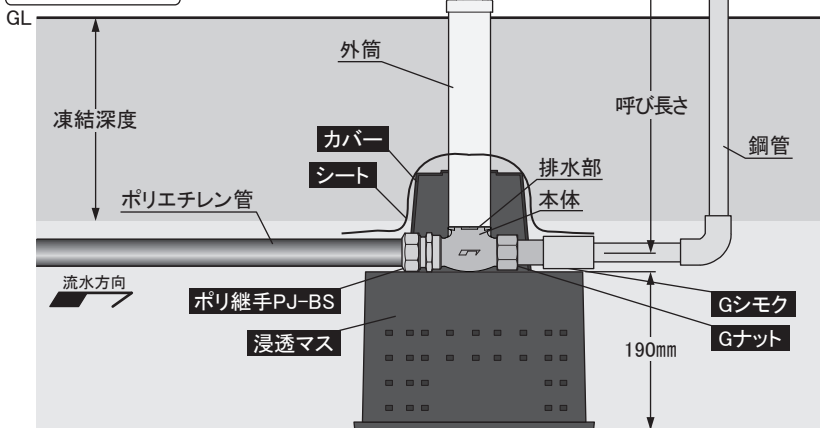
- ステンレス配管を接続する際は、絶縁処理を適切におこなって下さい。電食の恐れがあります。
- 作業時は保護具を使用して下さい。けがをする恐れがあります。
- 管軸に対して操作部を垂直・上向きに施工して下さい。作動不良の原因になります。
- 排水部を凍結深度以下に設置して下さい。埋設が浅いと凍結破損し、漏水の恐れがあります。
- 排水部周辺は、浸透マス・排水ブロック・砂利・碎石等を用いて、水はけを良くして下さい。水はけが悪いと凍結破損し、漏水の恐れがあります。
- 接続は、本体の矢印方向と配管の流水方向を合わせて下さい。方向が合っていないと凍結破損し、漏水の恐れがあります。
- 水抜きハンドルが確実に回せる空間を確保して下さい。水抜きハンドルが確実に回せないで凍結破損し、漏水の恐れがあります。
- 弁室内に施工する場合は、ハンドル操作が容易にできる空間を確保し、水はけを良くして下さい。
- 床下に施工する場合は必ず付近に点検口を設けて下さい。メンテナンスが困難になります。
- 施工前、配管接続部の清掃をおこない砂・ゴミ等の異物を排出して下さい。異物によって損傷・破損し、漏水の恐れがあります。
- 施工後、配管内の洗浄をおこない砂・ゴミ等の異物を排出して下さい。異物によって損傷・破損し、漏水の恐れがあります。
- 仕様の範囲内でお使い下さい。範囲外での使用は、器具の破損や性能劣化等の恐れがあります。

MT-II 施工例と各部名称

■仕様

使用流体	水道水
使用温度	35℃以下
	80℃以下 ※MT-II H/MT-H/TK-H3湯用
使用圧力	1.0MPa{10.2kgf/cm ² }以下
水道法性能基準適合(耐圧・浸出性能)	

■オプション



施工方法

1. 配管前に…

- ①メンテナンスのため、水抜きハンドル上部に内筒管一式(内部構造)が抜き出せる場所を選んで下さい。
- ②メンテナンスのため、キャップが地上に出る施工をして下さい。
- ③排水部を必ず凍結深度以下に施工して下さい。
- ④水を抜いた時、排水が確実に浸透する施工をおこなって下さい。

❗ 排水部をふさがない

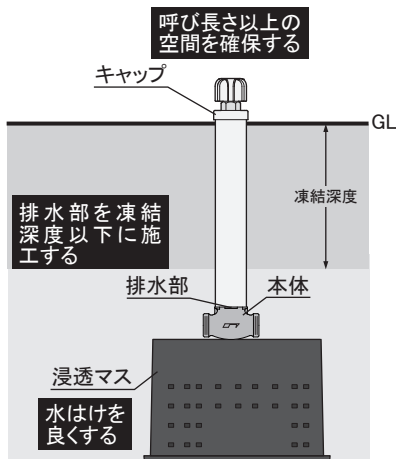
❗ 浸透マス・排水ブロック等を使用する

■オプション

長期間の排水効果が保てます。



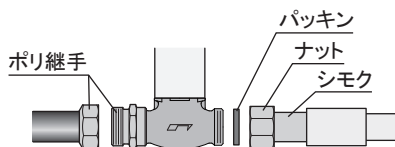
浸透マスカバーセット



2. 配管との接続

- ①1次側、2次側の配管種類に合わせて、シモク・ナット、継手等を配管に取り付けます。
- ②本体の流水方向を確認して、ナットにパッキンを入れ、工具を使って締め付け、本体と接続します。

❗ 配管接続部を清掃する



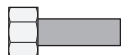
(例 1次側: ポリエチレン管接続、2次側: 鋼管接続)

❗ 流水方向を確認する

品名	配管接続
MT-II / MT-II-C / MT-II-H MT/MT-H / MT-C / MT-F / MT-A TK-H3 / TK-H3R / TK-H3RS / ST-II	1次・2次: 平行おねじ
MV / TK-L / BH-10	1次・2次: 平行おねじまたはテーパめねじ
MT-II-PP / MT-II-PPB / MT-PP / MT-PPB	1次・2次: ポリエチレン管継手

■オプション

配管との接続に便利な継手です。用途に合わせてお使い下さい。



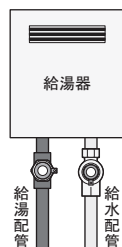
ポリ継手 PJ-BS VPシモク・ナット HVPシモク・ナット GPシモク・ナット

3. 吸気弁または吸気弁付止水栓の取り付け

- ①給湯器まわりは、水栓金具(蛇口等)を開けても空気が吸入されず、水が抜けません。必ず吸気弁・吸気弁付止水栓を取り付けて下さい。
- ②各立上り管のできるだけ高い位置に吸気弁・吸気弁付止水栓を取り付けます。壁中配管の場合は、吸気弁が必ず壁外に出る施工をして下さい。



吸気弁を付けても吸気弁より先の配管や給湯器内の水は、配管条件等により抜けない場合があります



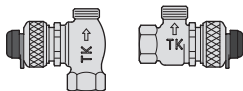
(例 V-F II / S-VL給湯器接続)

■オプション

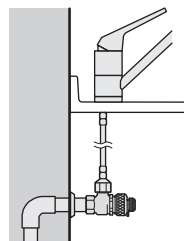
水抜き操作で、自動的に空気が吸入されます。



吸気弁 V-F II



吸気弁付止水栓
S-VL S-VA



(例 S-VA台所用混合栓接続)

洗管と作動確認

■洗管

施工後、水栓金具（蛇口等）を全開にし、水を流して配管の洗浄をおこなって下さい。

■作動確認

洗管後、水抜きハンドルを操作して水が抜ける（排水する）ことを確認して下さい。



洗管作業

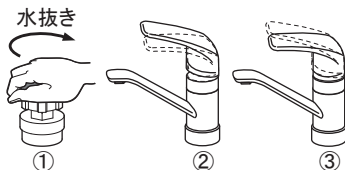
操作方法

■水抜き操作（凍結防止）

- ①水抜きハンドルを“水抜”方向（右回り）に止まるまで回します。
- ②水栓金具（蛇口等）を開けます。（水が抜けます）
※シングルレバー混合栓の場合、レバーを中央位置にしてから開けて下さい。

❗ 空気を吸入しないと水は抜けません

- ③水抜きが終わったら、水栓金具を閉めます。

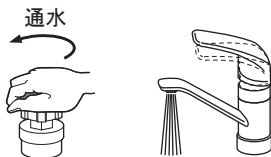


■通水操作

❗ 水栓金具（蛇口等）が閉じていること

水抜きハンドルを“通水”方向（左回り）に止まるまで回します。（通水状態になります）

※水栓金具（蛇口等）を操作してお使い下さい。



⚠ 通水操作直後は水栓金具（蛇口等）から水が飛び散ることがあります

お問い合わせ先

■お問い合わせのときには最寄の支店・営業所まで次のことお知らせ下さい。

- ・製品名
- ・詳しい状況、内容
- ・その他、お気づきになられたこと
- ・施工日
- ・氏名、住所、電話番号

株式会社 外村製作所

支店・営業所 / 札幌・青森・秋田・盛岡・山形・仙台・福島・北関東・新潟・長野・甲府
ホームページアドレス <https://www.takemura-ss.com>

お客様ご相談窓口

フリーダイヤル
0120-107210

イーナフター

月～金 AM9:00～12:00 PM1:00～5:00